

Title	トルコの多様性の包摂に関する一考察：シリア難民集住地域を焦点にして
Sub Title	
Author	鈴木, 慶孝(Suzuki, Yoshitaka)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2025
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.30 (2025. 7) ,p.115- 118
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2024年度三田社会学会大会報告要旨
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20250701-0115

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

トルコの多様性の包摂に関する一考察
——シリア難民集住地域を焦点にして——

鈴木 慶孝

1. 本報告の目的

本報告の目的は、2023年10月29日に建国100周年を迎えたトルコ共和国が、長年の国家的課題であった国民連帯や統合に対してどのようなヴィジョンを提示し、そこにどのような課題があるのかを、2023年10月下旬から11月上旬にかけて行ったフィールドワーク調査をもとに報告し、考察することにある。そのさいには、建国100周年の記念日前後や、イスタンブルや首都アンカラにおけるシリア難民集住地域の様相を紹介しつつ、トルコの社会統合の現状や課題の一端を読み解いていきたい。

2. トルコ建国100周年の背景と社会統合の課題

トルコは1923年の建国以来、西洋近代的な国民国家を目指してきた。この100年の間に、トルコは西洋近代化と再イスラーム化、国民統合と分断、民主主義の進展と後退を繰り返しながら、複雑な政治社会変動を経験してきた。クルド問題だけでなく、近年ではシリア難民の大規模な流入、定住化によって、社会的亀裂を経験してきた。建国100周年を迎えるなかで、トルコは国内外にどのようなメッセージを発信し、今後の国のあり方にどのようなヴィジョンを持っているのだろうか。以下では現場観察調査の結果を踏まえながら、トルコの長年の課題である社会統合や、多様性の調和に向けた課題をみていきたい（鈴木 2020; Çavlin ed. 2021）。

3. 建国100周年を迎えたトルコ

3.1 イスタンブルと首都アンカラの様相

ありとあらゆる場所で、トルコ国民に対して、共和国100周年の興奮や、アタテュルクへの敬愛と尊崇の念をもたせるような演出、空間作りがなされていた。アタテュルクによる「我々は正真正銘の愛国主義者であり、トルコ民族主義者だ」という巨大な横断幕も掲げられるなど、街中の様相は、イスラーム的価値観の強調よりも、トルコ・ナショナリズムや愛国主義、アタテュルクへの敬愛が色濃いものであった。祝賀ムードの一方で、首都中心部は厳戒態勢であった。街中では多数の警察官が配置されていた。2023年10月1日には、内務省を狙ったPKK（クルド労働者党）によるテロも発生している（AA 2023）。報告者には、警備の厳戒さが、国民社会の亀裂や不安定さを反映したもののようにも感じ取れた。

3.2 「トルコの世紀」

エルドアン大統領は100周年記念演説等で、今後のトルコが目指す「トルコの世紀」では、民主主義と国民の基本的権利と自由を保障すると述べる一方で、「ただ一つの国民、国旗、祖国、国家」という考え方に妥協は許されないと述べるなど、多様性を包摂するための、具体的な新たな統合ヴィジョンは示されなかった (AKP 2023; TY 2024b)。

4. シリア難民集住地域の様相と社会的包摂に向けた課題

4.1 イスタンブール県内

イスタンブール旧市街の中心地にあるファティ地区は、シリア難民が数多く集住していることから「リトル・シリア」と呼称されている。シリア系レストランやアラビア語の表記は、シリア難民にとっても居心地の良さや、帰属感を高めることにもつながっている (Baban et al. 2021: 156-9)。イスタンブールの歴史的・伝統的地区がシリア難民に乗っ取られているとして、地元住民からの反発も生み出している (Badel and Halaç 2023)。トルコの反移民・難民の国政政党であり、シリア難民の送還を掲げている「優良党 (İyi Partisi)」の地元選出の議員は、「ファティ地区をシリア人に分け渡すわけにはいかない」というスローガンを掲げている。また当局も、アラビア文字の排除やトルコ語への置き換え、あるいは併記の義務化を進めている。シリア難民に対するゼノフォビアの増加が危惧されている (Baban et al., 2021; Badel and Halaç 2023)。シリア難民集住地域内で、人々は日々の消費ニーズを満たせることから、トルコ語を学習したり、地元のトルコ人社会に積極的に溶け込む必要がなくなっており、集住地域がシリア人によってゲットー化したり、「エスニック・エンクレイブ (民族飛び地) 化」することが、トルコ社会側から懸念されている (Badel and Halaç 2023)。

4.2 アンカラ県内

首都アンカラ県内のシリア難民集住地域は、中心街の北東部にあるアルトゥンダー地区である。アンカラに登録されているシリア難民の半数以上が住んでいる。同地区は、地方から都市に移り住んだ人々によって多くの「ゲジェコンドウ (一夜建て)」が建てられた場所であった。ゲジェコンドウの跡地を中心に、地元住民と入れ替わるようにして、シリア難民が集住しており、同地区は「リトル・アレppo」とも呼ばれている。家賃も安く、近隣には雇用先である工業地帯 (シテレル工業地帯) もある (Savran and Sat 2019)。トルコには、難民が国民と協働可能となる工業団地が多数存在している (Betts and Collier 2017=2023: 240)。アルトゥンダー地区もまた、ファティ地区と同じような特徴がある (アラビア語等)。アルトゥンダー地区は、シリア難民が近隣の工業団地と結びつきながら、地域経済やネットワークを構築する場となっており、それが彼らの特定地域への集住化を促す要因にもなっている (Savran and Sat 2019)。2021年8月10日、シリア人とトルコ人の間で乱闘が起き、18歳のトルコ人青年が刺殺された。周辺住民が、近隣のシリア人の商店を破壊するという事件が生じた。この事件を受けて、アンカラ市長であるマンスール・ヤヴァシュ (Mansur Yavaş: 1955～) は、「ゲスト [シリア人] を帰国させることを望む」と述べた。その後、内務省の命令によって、アルトゥンダー地区のシリア難民を分散させるために、当局がシリア難民の居住地を複数破壊し、立ち退きを強制した。アンカラでも、シリア難民に対する差別や憎悪が増加傾向にある (Öztürk 2021; Cumhuriyet 2021)。

5. むすびにかえて

トルコ国内での反難民感情も年々高くなっており、トルコ人とシリア人の間で、相互理解に基づく平和裏の共存ができているとは言い難い状況にある。依然として、シリア人は社会統合の対象から外れており、「ゲスト」として認識されている。主要政党も彼らの帰還を強調している (Erdoğan ed. 2020; Mİ 2023; İP 2024; TM2024; TY 2024a)。

トルコは依然として、トルコ・ナショナリズム、イスラームの下での国民連帯や統合を推し進めているが、民族的・宗教的複雑性を増すトルコを統治する手段としては、すでに限界にきている。トルコは現在でも、EU加盟の実現を掲げており、民主化の機運自体は決して衰えていない。国内には民主化を求める政治勢力もある。西側諸国の一員として民主主義や人権を強化していくなかで、エルドアン政権やどの政治勢力にとっても、クルド人をはじめとするマイノリティ集団とシリア難民の包摂問題の解決は共通の政治的課題となる。多文化主義、多文化シティズンシップをはじめとした、新たな統治手段の模索は、今後のトルコにとって避けては通ることができないだろう。

【付記】

謝辞：本研究はJSPS 科研費JP22J00725, JP22KJ2751の助成を受けたものです。

(※2022年度特別研究員奨励費 (JP22J00725)、2023・2024年度特別研究員奨励費 (JP22KJ2751))

【文献】

- Anadolu Ajansı(AA), 2023, “Ankara’daki saldırıyı yapan teröristlerden birinin terör örgütü PKK üyesi olduğu belirlendi,” AA, Ankara: AA, (Retrieved February, 15, 2024, <https://www.aa.com.tr/tr/gundem/ankaradaki-saldiri-yi-yapan-teroristlerden-birinin-teror-orgutu-pkk-uyesi-oldugu-belirlendi/3005487>).
- Adalet ve Kalkınma Partisi(AKP), 2023, “Cumhurbaşkanımız Erdoğan, Cumhuriyet’in 100’üncü yıl dönümünde millete seslendi,” AKP, Ankara: AKP, (Retrieved October, 29, 2023, <https://www.akparti.org.tr/haberler/cumhurbaskanimiz-erdogan-cumhuriyet-in-100-uncu-yil-donumunde-millete-seslendi-29-10-2023-21-11-43/>).
- Baban, Feyzi et al., 2021, *The Precarious Lives of Syrian: Migration, Citizenship, and Temporary Protection in Turkey*, Montreal&Kingston/London/Chicago: McGill-Queen’s University Press.
- Badel Fatemeh and Hicran Hanım Halaç, 2023, “Getto ve Soylulaştırma Kavramları Üzerinden İstanbul Fatih Bölgesinin İncelenmesi: Ali Kuşçu Mahalesi,” *Kültür Araştırmaları Dergisi*,(16): 32-59.
- Betts, Alexander and Paul Collier, 2017, *Refugee: Transforming a Broken Refugee System*, New York: Oxford University Press (=2023, 岡部みどり・佐藤安信・杉本明子・山田満監訳『難民一行き詰まる国際難民制度を超えて』明石書店).
- Çavlin, Alanur ed., 2021, *Syrian Refugees in Turkey: A Demographic Profile and Linked Social Challenges*, New York: Routledge.
- Cumhuriyet, 2021, “Mansur Yavaş’tan ‘Altındağ’ açıklaması,” Cumhuriyet, Ankara: Cumhuriyet, (Retrieved July, 5, 2024, <https://www.cumhuriyet.com.tr/haber/mansur-yavastan-altindag-aciklamasi-1859801>).
- Erdoğan, Murat M ed., 2020, *Syrians Barometer 2019: A Framework for Achieving Social Cohesion with Syrians in*

Turkey, Ankara: Orion Kitabevi.

İyi Parti(IP), 2024, “1 Nisan’dan sonra artık İYİ Parti iktidarının ayak sesleri konuşulacak!,” İP, Ankara: İP, (Retrieved July, 5, 2024, <https://iyiparti.org.tr/1-nisandan-sonra-artik-iyi-parti-iktidarinin-ayak-sesleri-konusulacak>).

Millet İttifakı(Mİ), 2023, *Ortak Politikalar Mutabakat Metni*, Ankara: Mİ.

Öztürk, Fundanur, 2021, “Türkiye’deki Suriyeliler: Altındağ olayları sonrası Ankara’daki Suriyeli göçmenler, ‘Evlerimiz yıkılıyor, polisten kaçarak yaşıyoruz’ diyor,” BBC Türkçe, London: BBC Türkçe, (Retrieved July, 5, 2024, <https://www.bbc.com/turkce/haberler-turkiye-58597946>).

Savran, Sezen and N. Aydın Sat, 2019, “Ankara’da Suriyeli Göçmenlerin Yer Seçimi Tercihlerinin İncelenmesi ve Bir Etnik Kentsel Adacık Örneği Olarak Önder, Ulubey, Alemdağ Mahalleleri,” *Ankara Araştırmaları Dergisi*, 7(2): 283-302.

鈴木慶孝, 2020, 『<トルコ国民>とは何か—民主化の矛盾とナショナル・アイデンティティー』 慶應義塾大学出版会.

Turkish Minute(TM), 2024, “Teenage Syrian refugee killed amid wave of racist attacks in Turkey,” TM, Germany, the International Journalists Association, (Retrieved July, 5, 2024, <https://www.turkishminute.com/2024/07/03/teenage-syrian-refugee-killed-amid-wave-of-racist-attck-in-turkey/>).

Türkiye Yuzyılı(TY), 2024a, “Sosyal Hizmetlere Erişimin Artırılması: SOHEP,” TY, Ankara: TY, (Retrieved February, 19, 2024, <https://turkiyeyuzyili.com/proje-sosyal-hizmetlere-erisimin-artirilmasi-sohep>).

———, 2024b, “Türkiye Yuzyılı,” TY, Ankara: TY, (Retrieved February, 19, 2024, <https://turkiyeyuzyili.com/haklinin-yuzyili>).

(すずき よしたか 日本学術振興会特別研究員PD／上智大学総合グローバル学部〔報告時〕、
立命館大学衣笠総合研究機構〔現在〕)